

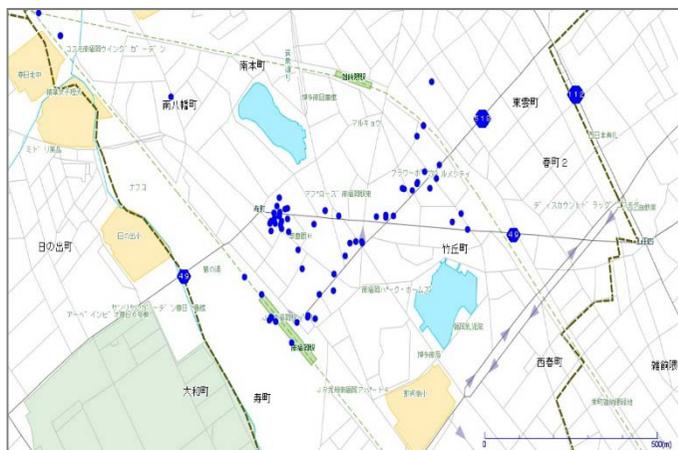
人の動きをやさしく支援する地域ITS利活用基盤に関する研究開発
 (古川 浩)
 (国立大学法人九州大学システム情報科学研究院)
 研究開発期間：平成24年度～平成25年度

1 研究開発の目的

「人の動き」の支援により商業や観光を盛んにすることで地域に経済的な効用をもたらすことを主の目的として、従来相互接続が困難であった複数の公共交通機関などが持つITS情報および商業や観光など地域内の様々な事業者が持つ情報を統合する地域ITS利活用システムを構築するための技術・手法について研究開発を行う。高齢者支援や災害時の海外からの渡航者への情報支援も併せて目的としている。

2 研究開発の成果及び結果

広域であればインターネットの仕組みを使って、狭域ではWi-Fiアクセスポイントの仕組みを利用して、人の動線誘導／動線解析を行う仕組みを開発した。プライバシーに配慮した仕組みであるため、個人を特定できないようになっている。



3 今後の研究開発成果の展開及び波及効果創出への取り組み

人の動きを可視化することで、それに関わる様々な施策を感覚やイメージに頼ることなく行うことができるようになります。高齢者はどのルートを通るのか、旅行者はどこからどこへ行くのか、広告を出すにもルートが明らかになるだけで効率の良い投資で結果を得ることができます。街づくりの効率化、地域の活性化、人の動きが関わるところには全て波及します。